熊本県文化財調査報告第 306 集

玉名高校校庭遺跡

玉名高等学校渡り廊下改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

２０１４.３

熊本県教育委員会

序　　文

熊本県教育委員会では、平成 25 年 8 月に、玉名高等学校渡り廊下改築工事に伴う埋蔵文化財確認調査の一環として、熊本県玉名市大字中に所在する「玉名高校校庭遺跡」の発掘調査を実施しました。

調査の結果、古代～中世（13 世紀代と推定）の溝（あるいは道路）1 条と柱穴 1 基の遺構が確認されました。出土遺物は、古代から中世の遺物が中心でしたが、縄文時代前期の土器も確認されました。遺跡地図の中で、「玉名高校校庭遺跡」は弥生時代と古墳時代の包蔵地とされていますが、玉名郡衙へ続く古代官道（8 世紀～ 9 世紀）が南北に通っていることが平成 4 年度の発掘調査により判明しています。今回確認された溝（あるいは道路）は、古代の郡衙道に沿う様に南北に走っておりその関連性が考えられます。

今回の報告書が学術的な蓄積に限らず、文化財保護に対する関心と理解に寄与できれば幸いです。

最後に、文化財保護の趣旨を理解し、発掘調査や報告書作成に関してご協力いただいた熊本県教育庁教育総務局施設課、玉名高等学校、植野建設株式会社、㈱伝座工房一級建築士事務所の関係者の方々にお礼を申し上げます。

平成 26 年 3 月 20 日

熊本県教育長　田崎　龍一

例　言

1　本書は、熊本県玉名市中に所在する玉名高校校庭遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告である。
2　発掘調査は、玉名高等学校渡り廊下改築工事に伴う埋蔵文化財確認調査の一環として、熊本県教育庁教育総務局文化課が平成 25 年度に実施したものである。
3　発掘調査における記録作業は、次の者で行った。
　⑴ 実測・測量：岡本真也、大坂亜矢子　　⑵ 写真撮影：岡本
4　整理報告書作成業務は、次の者で行った。
　⑴ 実測・製図・校正：佐藤淳子、江見恵留、宮崎典子、松本裕子、府内博子
　⑵ 写真撮影：村田百合子、松本智子、蓮池千恵
5　本書に掲載した資料は、熊本県文化財資料室に保管している。
6　本書の編集は、岡本が行い、佐藤、江見、松本がこれを補佐した。
7　調査体制は、以下のとおりである。
　調査主体：熊本県教育委員会
　調査責任者：小田信也（文化課長）・西住欣一郎（課長補佐）
　調査事務局：馬場一也（課長補佐）・廣石啓哉（主幹）・天草英子（主任主事）
　調査担当：岡本真也（主幹兼調査第 2 係長）・坂田和弘（参事）・大坂亜矢子（嘱託）
　整理担当：岡本・佐藤淳子（嘱託）・江見恵留（嘱託）
　【発掘作業員】 村田文武、北原靖治、本田秋信　【調査指導】亀田　学、池田朋生

凡　例

1　調査区は、遺構が確認された場所のみ平面図、断面図で表示しており、その他の場所はトレンチ断面図のみで表示した。
2　標高レベルは、植野建設から得た情報を基に算出した。
3　現地での遺構図の実測は、20 分の 1 縮尺で行った。
4　遺物の実測は、原寸大で行い、報告書に掲載した実測図の縮尺は 3 分の 1 とした。

第１章　調査の経緯と経過

１　調査の経緯

平成 25 年 7 月に熊本県教育庁教育総務局施設課から玉名高等学校渡り廊下改築工事に伴う埋蔵文化財の照会があり、協議を行った。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地「玉名高校校庭遺跡」であるため、工事箇所の確認調査を行うこととした。その後平成 25 年 8 月 13 日付け教施第 251 号で予備調査依頼があり、学習に影響を与えない夏休み中に旧渡り廊下の基礎を抜く作業を行わなければならない工事工程を鑑みて、確認調査の一環で工事立会と発掘調査を実施することとした。

２　調査の経過

発掘調査は、平成 25 年 8 月 21 日～ 23 日に行い、その後、熊本県文化財資料室にて整理作業と報告書作成を行い、平成 26 年 3 月に本書を刊行した。

第２章　遺跡の位置と周辺の遺跡

１　遺跡の位置

本遺跡は、菊池川の右岸、小岱山から南側に続くなだらかな丘陵上に位置し、標高約 16 ｍを測る。丘陵の基盤は表層地質図（熊本県 1996）によれば、洪積統（更新統）と表現されており、洪積世の堆積物であることがわかる。周辺の地質から推測すると、小岱山を構成する先第三紀花崗岩及び閃縁岩の上に阿蘇熔結火山砕屑岩が堆積した基盤層であることが考えられる。

２　周辺の遺跡

第 1 図を中心に本遺跡に関連する周辺遺跡について概観する。南東約 1 ㎞の標高６～７ｍの微高地には縄文時代中期の尾崎貝塚（468）がある。境川を挟んだ丘陵地帯には弥生時代から古代・中世の遺跡が点在する。

古代は、現在の JR 玉名駅周辺にあったとされる大湊から玉名郡家跡（263）まで続く官道跡（269）が本遺跡内を南北に貫いている。中世は、山田日吉神社を中心にした「白山十二坊」と呼ばれる 12 ヶ所の修験道場跡と各坊（225, 227, 228, 230, 231, 233,　235, 236, 238, 242, 243, 244）で崇拝されてきた石造物が残存している。山田山吉祥寺跡（234）や中尾西原遺跡（274：ホカンヤカタ）等の居館の可能性がある地名や地形も残る。高岡城跡（254）は大野一族が城主とされるが、伝承では天徳二年（958）紀清隆の長男の居館と伝えられる。

第1図　玉名高校校庭遺跡周辺遺跡地図（S=1/12000）

表１　玉名高校校庭遺跡周辺遺跡一覧（玉名市遺跡地図引用）(1)

遺跡番号	地図番号	名　　称	ﾒｲｼｮｳ	種類	所　在　地		時　代	備　　考
					大字	小字		
75	17･24	山田後田遺跡	ﾔﾏﾀﾞｱﾄﾀﾞｲｾｷ	包蔵地	山田	後田	中世	
77	17	山田平城遺跡	ﾔﾏﾀﾞﾋﾗｼﾛｲｾｷ	包蔵地	山田	平城	中世	
209	17･23･24	兎町遺跡群	ｳｻｷﾞﾏﾁｲｾｷｸﾞﾝ	包蔵地	築地	兎町・西田	弥生	ぶどう畑開墾で発見。
210	24	四十九古墳	ｼｼﾞｭｳｸｺﾌﾝ	古墳	築地	四十九	古墳	全壊。旧築山小学校敷地内。
211	24	ナギノ遺跡	ﾅｷﾞﾉｲｾｷ	包蔵地	築地	ナギノ	古代	須恵器・土師器類が出土。
212	24	築地館跡	ﾂｲｼﾞﾔｶﾀｱﾄ	城館	築地	ナギノ	古墳・中世	田添館跡。当時の宝篋印塔・五輪塔残る。須恵器・土師器。
213	24	古閑遺跡	ｺｶﾞｲｾｷ	包蔵地	築地	古閑	弥生	土師・須恵器が出土する住居跡。
214	24	円光寺	ｴﾝｺｳｼﾞ	寺社	築地	陣内	近世・近代	天正２年僧古心開基
215	24･31	南大門遺跡群	ﾅﾝﾀﾞｲﾓﾝｲｾｷｸﾞﾝ	包蔵地	築地	南大門	弥生・古代・中世	弥生後期の住居跡10数基出土。布目瓦・土師器・須恵器
216	24	南大門五輪塔群	ﾅﾝﾀﾞｲﾓﾝｺﾞﾘﾝﾄｳｸﾞﾝ	石造物	築地	南大門	中世	
217	24	築地乙宮神社	ﾂｲｼﾞｵﾄﾒﾐﾔｼﾞﾝｼﾞｬ	寺社	築地	南大門	近世・近代	昭和22年建立、神像一木造乙護法一躯
218	24	関白塔	ｶﾝﾊﾟｸﾄｳ	石造物	築地	南大門	中世	五輪塔総高、東塔2.63ｍ、西塔2.65ｍ。市指定
219	24	小路古銭出土地	ｼｮｳｼﾞｺｾﾝｼｭﾂﾄﾞﾁ	包蔵地	築地	南大門	近世・近代	寛永通宝数400枚出土。
220	24	浄光寺蓮華院跡	ｼﾞｮｳｺｳｼﾞﾚﾝｹﾞｲﾝｱﾄ	寺社	築地	南大門	中世	寺院境内。仏具･仏像等出土。現在新寺建つ。
221	24	妙性尼寺跡	ﾐｮｳｼｮｳﾆｼﾞｱﾄ	寺社	築地	南大門	中世	寺院境内。墓地のみ残る。
222	25	保多地遺跡	ﾎﾀﾁｲｾｷ	包蔵地	山田	保多地	古代	
223	17･24	山田神社門前遺跡群	ﾔﾏﾀﾞｼﾞﾝｼﾞｬﾓﾝｾﾞﾝﾏｴｲｾｷｸﾞﾝ	包蔵地	山田	下馬場･白石	古代	弥生土器・甕・土師器破片多数出土。
224	17･24	山田山吉祥寺跡推定地	ﾔﾏﾀﾞｻﾝｷｯｼｮｳｼﾞｱﾄｽｲﾃｲﾁ	包蔵地	山田	上馬場	中世	昭和61年8月調査、青・白磁出土。和銅元年僧吉祥創立
225	17･24	白山宮円蔵坊跡	ﾊｸｻﾞﾝｸﾞｳｴﾝｿﾞｳﾎﾞｳｱﾄ	寺社	山田	上馬場	中世	五輪塔４基。山田白山宮比売神十二坊祭礼記録帳付。十二坊塔碑。
226	24	建長４年銘宝塔	ｹﾝﾁｮｳﾈﾝﾒｲﾎｳﾄｳ	石造物	山田	上馬場	中世	建長４年銘。脇に石造塔群あり。
227	24	白山宮満楽坊跡	ﾊｸｻﾞﾝｸﾞｳﾏﾝﾗｸﾎﾞｳｱﾄ	寺社	山田	上馬場	中世	宝塔塔身を祀る。
228	24	白山宮徳仁坊跡	ﾊｸｻﾞﾝｸﾞｳﾄｸｼﾞﾝﾎﾞｳｱﾄ	寺社	山田	上馬場	中世	室町期。石造塔婆と五輪塔断材が点在する。
229	24	上馬場遺跡	ｶﾐﾊﾞﾊﾞｲｾｷ	生産	山田	上馬場	弥生	
230	24	白山宮西林坊跡	ﾊｸｻﾞﾝｸﾞｳｻｲﾘﾝﾎﾞｳｱﾄ	寺社	山田	上馬場	中世	自然石の石碑を祀る。
231	24	白山宮徳蔵坊跡	ﾊｸｻﾞﾝｸﾞｳﾄｸｿﾞｳﾎﾞｳｱﾄ	生産	山田	上馬場	中世	五輪塔残欠を祀る。南天が神木。
232	24	上馬場北東遺跡	ｶﾐﾊﾞﾊﾞﾎｸﾄｳｲｾｷ	生産	山田	上馬場	弥生	
233	24	白山宮宮司坊跡	ﾊｸｻﾞﾝｸﾞｳｸﾞｳｼﾞﾎﾞｳｱﾄ	寺社	山田	上馬場	中世	五輪塔を祀る。
234	24	山田山吉祥寺跡	ﾔﾏﾀﾞｻﾝｷｯｼｮｳｼﾞｱﾄ	寺社	山田	上馬場	中世	入口橋石、山田校記念碑
235	24	白山宮覚満坊跡	ﾊｸｻﾞﾝｸﾞｳｶｸﾏﾝﾎﾞｳｱﾄ	寺社	山田	上馬場	中世	鎌倉期の笠塔婆を室町期に当地に移設。防虫最高位。
236	24	白山宮宝泉坊跡	ﾊｸｻﾞﾝｸﾞｳﾀｶﾗｾﾝﾎﾞｳｱﾄ	寺社	山田	上馬場	中世	慶長９年検地帳に法泉坊とあり。宝塔々身。
237	24	上馬場南西遺跡	ｶﾐﾊﾞﾊﾞﾅﾝｾｲｲｾｷ	生産	山田	上馬場	弥生	
238	24	白山宮俊教坊跡	ﾊｸｻﾞﾝｸﾞｳｼｭﾝｷｮｳﾎﾞｳｱﾄ	寺社	山田	上馬場	中世	室町時代の成立。宝塔々身と板碑を祀る。
239	24	上馬場古墳	ｶﾐﾊﾞﾊﾞｺﾌﾝ	古墳	山田	上馬場	古墳	
240	24	上馬場南東遺跡	ｶﾐﾊﾞﾊﾞﾅﾝﾄｳｲｾｷ	生産	山田	上馬場	縄文・弥生	御領式土器の小片を確認
241	24	石造十六橋	ｾｷｿﾞｳｼﾞｭｳﾛｸﾊﾞｼ	生産	山田	下馬場	近世・近代	明治16年築造。市指定
242	24	白山宮大力坊跡	ﾊｸｻﾞﾝｸﾞｳﾀﾞｲﾘｷﾎﾞｳｱﾄ	寺社	山田	下馬場	中世	２つの巨岩を祀る。
243	24	白山宮壇の坊跡	ﾊｸｻﾞﾝｸﾞｳﾀﾞﾝﾉﾎﾞｳｱﾄ	寺社	山田	下馬場	中世	五輪塔を祀る。鎌倉期の塔、室町期に祭祀。
244	24	白山宮宝珠坊跡	ﾊｸｻﾞﾝｸﾞｳﾎｳｼｭﾎﾞｳｱﾄ	寺社	山田	下馬場	中世	祠に不動像を祀る。
245	24	西田支石墓	ﾆｼﾀﾞｼｾｷﾎﾞ	墳墓	山田	西田	弥生	弥生土器・石斧出土。
246	24	乙姫さんの墓	ｵﾄﾋﾒｻﾝﾉﾊｶ	墓	山田	松尾	古代	乙女塚
247	24	山田松尾遺跡群	ﾔﾏﾀﾞﾏﾂｵｲｾｷｸﾞﾝ	包蔵地	山田	松尾	中世	
248	24	松尾平遺跡	ﾏﾂｵﾋﾗｲｾｷ	包蔵地	山田	平	弥生	弥生後期。住居跡。
249	24	地蔵前遺跡	ｼﾞｿﾞｳﾏｴｲｾｷ	包蔵地	山田	地蔵前	中世	弥生～中世期の遺物出土
250	24	山田中嶋遺跡	ﾔﾏﾀﾞﾅｶｼﾏｲｾｷ	包蔵地	山田	中嶋	弥生・古代	弥生土器。甕棺１基。
251	24	糠峯遺跡群	ﾇｶﾐﾈｲｾｷｸﾞﾝ	包蔵地	山田	糠峯	古代	団地造成時確認。消滅。
252	24	糠峯古墳	ﾇｶﾐﾈｺﾌﾝ	古墳	山田	糠峯	古墳	団地造成時消滅。
253	24	糠峯西畑遺跡	ﾇｶﾐﾈﾆｼﾊﾀｲｾｷ	包蔵地	山田	糠峯	古代	
254	24	高岡城跡	ﾀｶｵｶｼﾞｮｳｱﾄ	城館	山田	高岡	中世	伝記国隆の長男の居館。
255	24	高岡古墳	ﾀｶｵｶｺﾌﾝ	古墳	山田	高岡	古墳	石材の一部が残る。
256	24	高岡原遺跡	ﾀｶｵｶﾊﾞﾗｲｾｷ	包蔵地	山田	高岡原･高岡	弥生～古墳	土師器・須恵器・弥生土器片散布。
257	24	高岡原北遺跡	ﾀｶｵｶﾊﾞﾗｷﾀｲｾｷ	包蔵地	山田	高岡原	古代	崖面より須恵器多数出土。
258	24	高岡原西遺跡	ﾀｶｵｶﾊﾞﾗﾆｼｲｾｷ	包蔵地	山田	高岡原	中世	
259	24	高岡原東遺跡	ﾀｶｵｶﾊﾞﾗﾋｶﾞｼｲｾｷ	包蔵地	山田	高岡原	縄文	
260	24	高岡いっちょう畑古墳	ﾀｶｵｶｲｯﾁｮｳﾊﾞﾀｹｺﾌﾝ	古墳	山田	高岡原	古墳	割石組みのは箱式石棺。長さ1.8m 幅50cm。
261	24	平嶋遺跡	ﾋﾗｼﾏｲｾｷ	包蔵地	山田	平嶋	弥生・古代	住居跡11軒。
262	24	西畑遺跡	ﾆｼﾊﾀｲｾｷ	包蔵地	立願寺	西畑	古代	
263	24･25	玉名郡家跡	ﾀﾏﾅｸﾞｳｹｱﾄ	官衛	立願寺	石丸	古代	上立願寺部落北部、布目瓦多量散布。
264	24	三郎丸塚	ｻﾌﾞﾛｳﾏﾙﾂｶ	墳墓	立願寺	石丸	古代	
265	24	イボ天神	ｲﾎﾞﾃﾝｼﾞﾝ	寺社	立願寺	石丸	古代	神体は立願寺廃寺跡の礎石。
266	24	石天神	ｲｼﾃﾝｼﾞﾝ	寺社	立願寺	石丸	古代	神体は立願寺廃寺跡の礎石。
267	24	立願寺池	ﾘｭｳｶﾞﾝｼﾞｲｹ	湧水	立願寺	石丸	中世	
268	24	鳥井原遺跡	ﾄﾘｲﾊﾗｲｾｷ	包蔵地	立願寺	鳥井原	弥生	
269	24	官道跡	ｶﾝﾄﾞｳｱﾄ	官衛	立願寺	池田上	古代	古代舗装道路。ワダチあり。
270	24	天神木遺跡群	ﾃﾝｼﾞﾝｷﾞｲｾｷｸﾞﾝ	包蔵地	中尾	天神木	古代	
271	24	天神木古墳参考地	ﾃﾝｼﾞﾝｷﾞｺﾌﾝｻﾝｺｳﾁ	古墳	中尾	天神木	古墳	中尾菅原神社境内
272	24	知応院跡	ﾁｵｳｲﾝｱﾄ	寺社	中尾	天神木	近世・近代	
273	24･31	中尾川原遺跡	ﾅｶｵｶｶﾜﾊﾗｲｾｷ	生産	中尾	川原	古代	条里跡
274	24	中尾西原遺跡	ﾅｶｵﾆｼﾊﾗｲｾｷ	包蔵地	中尾	西原	中世	土師器・須恵器・陶磁器・瓦質土器出土。
275	24	中尾馬場遺跡	ﾅｶｵﾊﾞﾊﾞｲｾｷ	散布地	中尾	馬場	中世	
276	24	中尾馬場古塔碑群	ﾅｶｵﾊﾞﾊﾞｺﾄｳﾋｸﾞﾝ	石造物	中尾	馬場	中世	切石三角頂板卒塔婆同形２基。小型五輪塔３基及び五輪塔断片数個。
277	24	中尾城ノ下遺跡	ﾅｶｵｼﾞｮｳﾉｼﾀｲｾｷ	包蔵地	中尾	城ノ下	中世	
321	24･25･31	高瀬藩邸跡	ﾀｶｾﾊﾝﾃｲｱﾄ	官衙	岩崎	中岩崎	近世・近代	玉名町小・玉名女子高敷地。自明堂跡含む。絵図有り。
331	25	松尾原遺跡	ﾏﾂｵﾊﾗｲｾｷ	包蔵地	立願寺	塔尾・松尾	弥生	大小甕棺15個出土。須玖式２個確認。
332	25	立願成廃寺	ﾘｭｳｶﾞﾝｼﾞﾊｲｼﾞ	寺社	立願寺	塔尾・松尾	古代	布目瓦多量に出土。白鳳期単弁文軒丸瓦出土。

表１　玉名高校校庭遺跡周辺遺跡一覧（玉名市遺跡地図引用）(2)

遺跡番号	地図番号	名　　称	ﾒｲｼｮｳ	種類	所　在　地		時　代	備　　考
					大字	小字		
333	24･25	下立願寺遺跡群	ｼﾓﾘｭｳｶﾞﾝｼﾞｲｾｷｸﾞﾝ	包蔵地	立願寺	曲松・西段	弥生・古代・中世	単式甕棺・弥生土器片・布目瓦散布。中世道を含む。
335	24･25	中世道	ﾁｭｳｾｲﾄﾞｳ	包蔵地	立願寺	西段	中世	蓮華印と疋野神社を結ぶ道
432	24･31	平町遺跡	ﾋﾗﾏﾁｲｾｷ	包蔵地	築地	平町	古代	土師器・須恵器片を表採。
433	31	浄光寺南大門跡	ｼﾞｮｳｺｳｼﾞﾅﾝﾀﾞｲﾓﾝｱﾄ	寺社	築地	南大門	古代	寺跡より南約 300 m。三巴布目瓦多量出土。
434	24･31	東南大門遺跡	ﾋｶﾞｼﾅﾝﾀﾞｲﾓﾝｲｾｷ	包蔵地	築地	南大門・北尾崎	弥生	弥生後期、土師器多量出土。
435	24･31	差原山伏塚	ｻﾊﾗﾔﾏﾌﾞｼﾂﾞｶ	墳墓	中	差原	中世	題目・福宋・善八と銘あり。
436	24･31	春出遺跡	ﾊﾙﾃﾞｲｾｷ	包蔵地	中	徳丸・陣内	弥生・古代・中世	弥生土器・須恵器・土師器・瓦質土器
437	24･25 31･32	玉名高校校庭遺跡	ﾀﾏﾅｺｳｺｳﾃｲｲｾｷ	包蔵地	中	徳丸	弥生	弥生土器・石斧が出土。
438	31	慶専寺	ｹｲｾﾝｼﾞ	寺社	中	陣内	近世・近代	天文の頃僧正信開基
439	31	慶専寺古塔碑群	ｹｲｾﾝｼﾞｺﾄｳﾋｸﾞﾝ	石造物	中	陣内	中世	梵字の朱塗り
440	31･32	南出遺跡群	ﾐﾅﾐﾃﾞｲｾｷｸﾞﾝ	包蔵地	中	内田	弥生・古代	弥生甕棺出土、玉名高校蔵。
441	31	南出地下式土坑	ﾐﾅﾐﾃﾞﾁｶｼｷﾄﾞｺｳ	包蔵地	中	内田	中世	国道 209 号沿い、近くは弥生以降遺跡。
442	31	南出甕棺群	ﾐﾏﾐﾃﾞｶﾒｶﾝｸﾞﾝ	包蔵地	中	内田	弥生	国道 208 号沿い、近くは弥生以降遺跡。
443	31	台の島古墳	ﾀﾞｲﾉｼﾏｺﾌﾝ	古墳	中	島	古墳	台地南突破。舟型石棺出土。消滅か
444	31･32	ワク	ﾜｸ	水制	松木	堤外地	近世・近代	1 段（布積）長さ 11.6m・幅 19.5m・修復あり
445	31	ワク	ﾜｸ	水制	六田	堤外地	近世・近代	1 段（布積）長さ 12.6m・幅 24m・修復あり
446	31	ワク	ﾜｸ	水制	六田	堤外地	近世・近代	1 段（乱と布積）長さ 9.6m・幅 8.3m。修復あり
447	31	ワク	ﾜｸ	水制	六田	堤外地	近世・近代	1 段（布積）長さ 4.8m・幅 6.3m。修復なし
448	31	ワク	ﾜｸ	水制	六田	堤外地	近世・近代	1 段（布積）長さ 7.8m・幅 8.8m。修復なし
449	31	ワク	ﾜｸ	水制	六田	堤外地	近世・近代	1 段（上流側布積・下流側乱積）長さ 2.8m・幅 4.8m。修復あり
450	31	ワク	ﾜｸ	水制	六田	堤外地	近世・近代	1 段（谷積）長さ 6.2m・幅 6m。修復なし
457	31	下前原遺跡	ｼﾓﾏｴﾊﾗｲｾｷ	包蔵地	下前原	東原	弥生	昭和 32 年発掘調査、鉄器出土
458	31	東原遺跡	ﾋｶﾞｼﾊﾗｲｾｷ	包蔵地	下前原	東原	弥生	人骨１体伸展葬
459	30･31	今見堂遺跡	ｲﾏﾐﾄﾞｳｲｾｷ	包蔵地	野口	今見堂	中世	土葬人骨１、五輪塔片、宋銭、青磁、土師器皿出土。
460	31	大原遺跡	ｵｵﾊﾗｲｾｷ	包蔵地	野口	大原	弥生～中世	住居跡４戸確認、箱式石棺 14 基、青磁椀２個
461	31	木船西遺跡	ｷﾌﾞﾈﾆｼｲｾｷ	包蔵地	野口	池田ほか	弥生	弥生後晩期土器少量
462	31	木船遺跡	ｷﾌﾞﾈｲｾｷ	包蔵地	野口	木船	古墳	地下式土坑墓１基発見
463	31	木船五輪塔	ｷﾌﾞﾈｺﾞﾘﾝﾉﾄｳ	石造物	野口	木船	中世	風・空輪を失う、水輪に像あり
464	31	森崎直次郎藤原定孝の墓	ﾓﾘｻｷﾅｵｼﾞﾛｳﾌｼﾞﾜﾗｻﾀﾞﾀｶﾉﾊｶ	墓	野口	木船	中世	木船神社祠司、寛正 11 年建立
465	31	森崎伊勢守貞長の墓	ﾓﾘｻｷｲｾﾉﾓﾘｻﾀﾞﾅｶﾞﾉﾊｶ	墓	野口	木船	中世	木船神社祠司
466	31	木船東遺跡	ｷﾌﾞﾈﾋｶﾞｼｲｾｷ	包蔵地	野口	木船	弥生	弥生師器片の１群出土
467	31	檣埋没の碑	ﾎﾊﾞｼﾗﾏｲﾎﾞﾂﾉﾋ	石造物	野口	木船	古代	神体御用船帆柱埋没。碑より東に３間。市指定の樟あり
468	31	尾崎貝塚	ｵｻﾞｷｶｲﾂﾞｶ	貝塚	野口	尾崎	縄文	専大玉名高校校庭、阿高式
469	31	尾崎遺跡	ｵｻﾞｷｲｾｷ	包蔵地	野口	尾崎	弥生～古墳	須恵器類、完形出土
470	31･32	塚原遺跡	ﾂｶﾊﾗｲｾｷ	包蔵地	野口	塚原	弥生	中期、須玖系３基
471	31	下河原条里跡	ｼﾓｶﾜﾊﾗｼﾞｮｳﾘｱﾄ	生産	野口	下河原	古代	条里跡
529	32	小島城跡	ｵｼﾏｼﾞｮｳｱﾄ	城館	小島	後畑・居屋敷	中世	小島天神前

第３章　調査成果

１　基本土層

１層　　撹乱層・客土層。

２層　　黒褐色土（Hue2.5YR 2/2）褐色粒、肌色の粒子などの混入物を多く含む硬く締まる土。粘性は弱い。古代～中世の遺物を含む。

３層　　黒色土（Hue7.5YR 1.7/1）粒子が細かくやや締まる土。粘性は弱い。黒色土主体で４層のブロックを所々に含む。遺構の埋土も基本的に同様である。縄文時代や古代～中世の遺物を含む。４層が無遺物層ということを考慮すると縄文時代から中世までの遺物包含層と考えられる。

４層　　黒褐色土（Hue7.5YR 3/2）粒子が細かく粘性が強い。色調は上層と比較して明るいため、遺構確認面となる。坂田和弘氏によれば、この層は現在のところ玉名地方では無遺物層であるとのことであるが、旧石器が出土する可能性が考えられる。

2　遺構

3層を埋土とする遺構が2基検出された。（第3図参照）

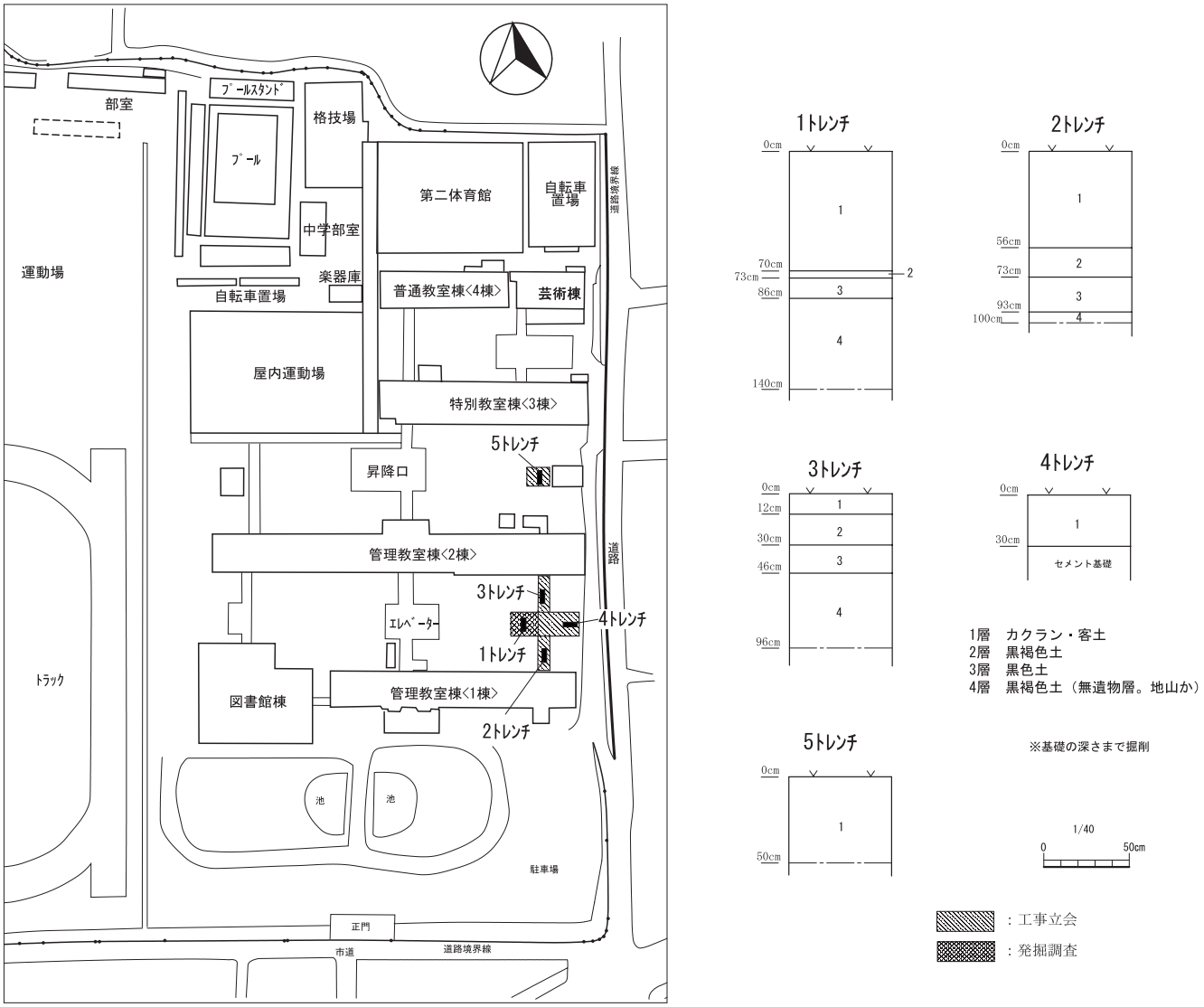
（1）溝（あるいは道路）

南北（北北東に12～13度ずれる）につながる溝を1条検出した。確認した長さは7.2mで幅0.85～0.9m、深さ0.2mであった。北側の一部に硬化面が残存することから道であった可能性も考えられるが全面には広がらない。区画の溝あるいは道路であろう。

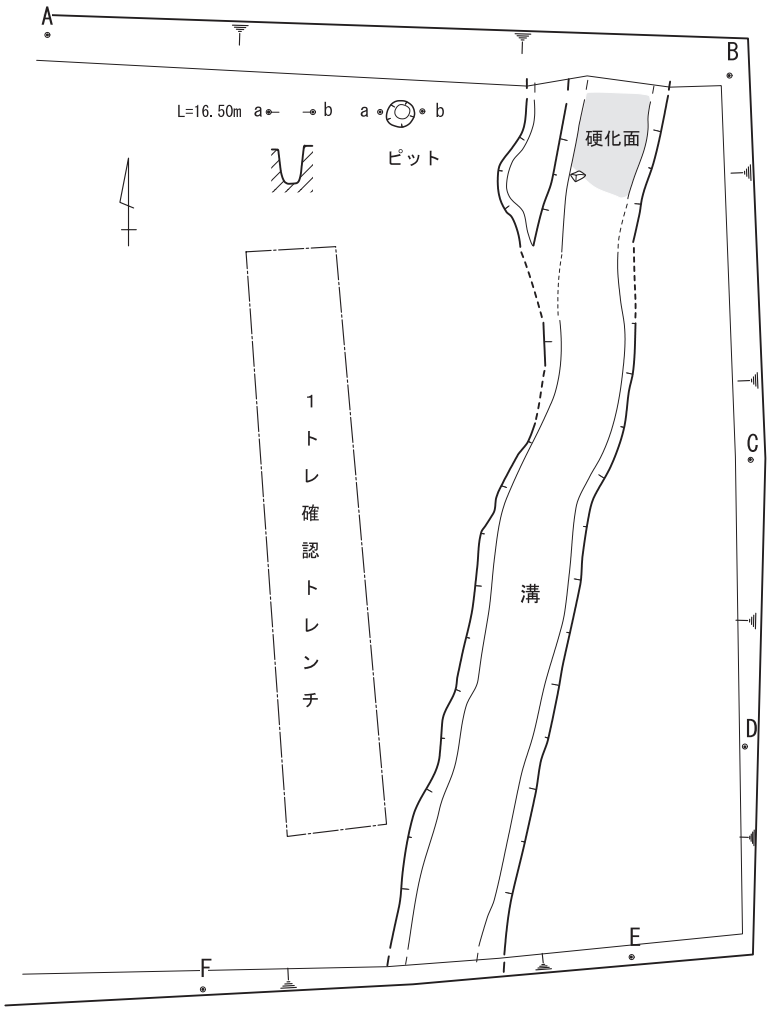
この遺構から出土した遺物は古代の須恵器や土師器の小片が数点であったが、図化できるものはなかった。埋土は3層であることから考えると時期は古代～中世（13世紀代）と考えられる。

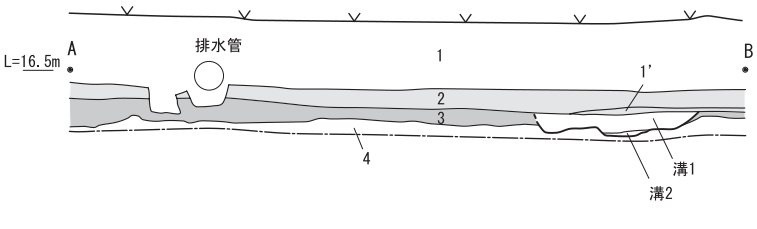
（2）ピット

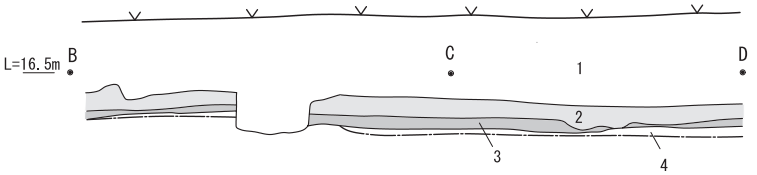
径0.2m、深さ0.27mのピットを1基検出した。径は小さいがしっかりとした掘方であることから、柱の穴と考えられる。しかし、現状での柱穴のつながりは確認できなかった。須恵器片が1点出土したが、小片のため図化できなかった。遺構の時期は溝と同じ古代～中世と考えられる。

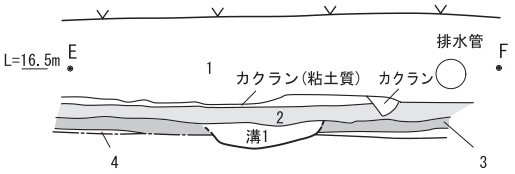


第2図　玉名高校高庭確認調査トレンチ箇所及び土層断面図









溝１層
１層とほぼ同じ層。

溝２層
色調は地山の層に近く明るいが、砂質で硬化している。

1～4
基本土層（4ページ参照）

0　1/60　2m

第3図　1トレンチ拡張調査区遺構配置図及び土層断面図

３　遺物

No.１は、縄文時代前期、轟式土器の深鉢の口縁部から胴部上半部にかけての資料である。残存高 15.9cm、器厚 0.9～1.3cm を測る。焼成は良好であり、胎土は角閃石、石英、長石、雲母などを含んでいる。色調[註1)]は内外面とも明赤褐色（Hue5YR5/6）である。器面の調整は内外面ともに口縁部周辺は横方向、胴部は縦方向の貝殻条痕文であるが、内面の胴部は残存している条痕が薄い。器形はやや波状口縁で尖底の深鉢形と考えられる。桒畑編年では轟Ａ式の２段階にあたり、鎌石橋式[註2)]の範疇で捉えることが可能である。１トレンチと２トレンチの間の３層から出土している。

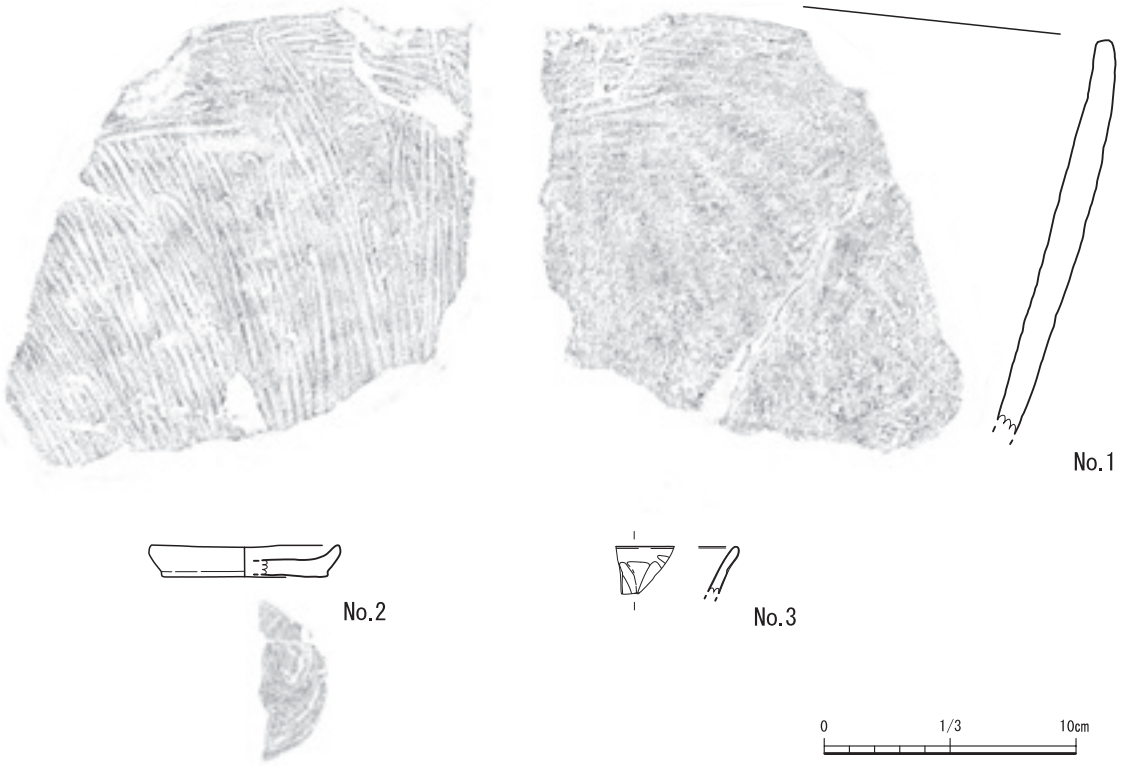
No.２は、土師器の小皿である。復元口径は 7.4cm、高さ 1.25cm を測る。焼成は良好であり、胎土は石英、長石、雲母、赤色粒を含んでいる。色調は内外面とも橙色（Hue7.5YR7/6）であり、器面の調整は内面は縦、横方向のナデ、底面は糸切り離しの痕跡が見られる。美濃口編年を参考にすれば、口径が７cm 代であることから 13 世紀代で捉えることが可能かもしれない。しかし、杯とのセットではないので断言はできない。２トレンチ周辺の３層から出土している。

No.３は、龍泉窯系青磁椀の口縁部である。残存高 1.85cm、器厚 0.3cm を測る。外面はヘラで連弁文を刻んである。山本編年では椀Ⅱ類でＥ期（13 世紀前後～前半）の所産である。２トレンチ周辺の３層から出土している。

この他に３層からは、古代の須恵器や土師器片が出土しているが、小片であるため、時期の特定までには至っていない。また、中世の滑石製石鍋片も出土している。

註1)　色調は、新版標準土色帖　2004 年版　農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修による。

註2)　池田朋生氏のご教示による。



第4図　玉名高校校庭遺跡出土遺物実測図

第４章　まとめ

今回確認された溝（あるいは道路）の時期が考えられる古代から中世（13 世紀代）について、周辺遺跡の調査例や先行研究等を引用して私見を述べてみたい。

【古代】　玉名郡衙のうち玉名郡倉と立願寺廃寺は、昭和 29 年（1954 年）と 31 年（1956 年）に、田辺哲夫団長により発掘調査が実施されその位置が比定されてきた。庁院の発掘は平成２年（1991 年）に行われ、正殿である桁行八間（九十二尺）梁行三間（三十二尺）の総柱の掘立柱建物（主軸は西に三度傾斜）が確認されている。平成３年（1992 年）に行われた大湊遺跡と郡衙道の発掘調査では、8 世紀代の水駅であったことや切り通しの道路が大湊から郡家まで 1.6㎞に亘って敷設されていることが判明した。また、大湊から郡衙道と郡家を結ぶ延長戦上に金比羅山（標高 147 m）[註3] が存在することから意図的な配置がされていたことも指摘されている。

これらの調査成果から７世紀末～８世紀初め、寺院の伽藍の整備、郡衙道の敷設、大湊（水駅）[註4] の設置、郡家（庁院・館院）の設置など、玉名郡衙の造営が一斉に開始されたと考えられている（坂田 1994）。

今回確認された溝（あるいは道路）が古代と仮定すれば、軸線が北北東に 12 ～ 13 度ずれることから、８世紀前半から中頃の遺物が出土してほぼ南北に走る郡衙道より時代が下る区画溝あるいは道路の可能性が考えられる。

【中世】　古代末から中世にかけて日置氏の相伝私領を基にした宇佐八幡領伊倉庄（伊倉別符・伊倉保）、筥崎宮領大野別符[註5]、太宰府安楽寺領玉名庄、仁和寺領玉名庄などが成立した。大野別符は菊池川右岸の高瀬から岱明町一帯にかけて広がっており、将にこの遺跡が含まれる。この地を支配した大野氏（紀氏）は建久四年（1193 年）大野二五〇町の地頭として関東から下向、嫡子時隆が高瀬・中村を領し中村姓とし、次男国秀は築地を領し築地を姓とし、三男秀隆は居屋敷などを領し大野を姓としたとされる。

築地には浄光寺があり、築地氏の館跡と伝えられる土塁や堀をめぐらした屋敷跡が残っている。その北方約 1200 mには吉祥寺址があり、「建長二年大才庚戌五月十六日」銘の宝塔の残欠が１基、吉祥寺址毘沙門堂には「建長二年壬子七月廿八日」銘の宝塔の残欠が１基残存している。いずれも西暦 1250 年であり、13 世紀中ごろの宝塔である。また、この一帯は修験道との関連性が高い「白山十二坊」が現存しており、吉祥寺址との結びつきが想定される。

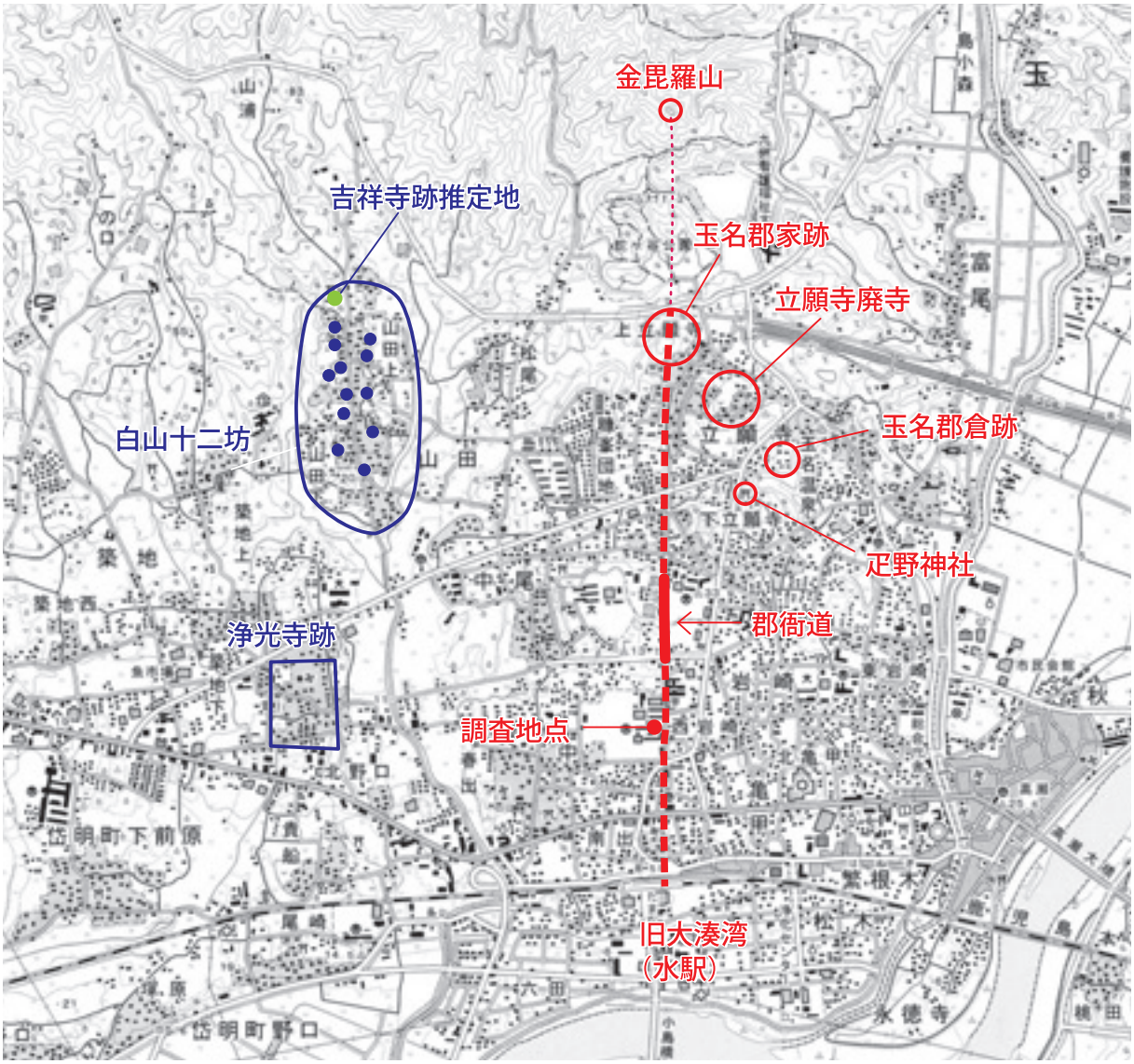
今回確認された溝（あるいは道路）が同じ基本土層の３層から出土している遺物（第４図:No.２と３）をもとに、中世（13 世紀）と仮定すれば、大野氏（紀氏）のエリア内に存在したことは間違いなく、浄光寺や吉祥寺址との関連性も考えられる。また、庁院から 13 ～ 14 世紀の遺物が出土していることや郡衙道の埋土４層から中世後期の遺物が出土していることから、周辺は中世段階でも古代以降何らかの土地利用がなされていたものと考えられる。

ここでは、溝（あるいは道路）の軸線が、南北に走る古代の郡衙道と比較して、北北東に 12 ～ 13 度ずれることから、遺構の時期を古代の終わりから中世（13 世紀代）と想定し、古代の影響を受けて、中世まで続いていた区画溝あるいは道路の名残として捉えておきたい。

註3）　金比羅山（標高 147 m）は三角形に尖った山で山頂に大きな立石群があり、磐座になっている。磐座は郡司の日置氏が祭る氏神の疋石神と考えられ、磐座を基点に玉名郡衙が設計されている（坂田 1994）。

註4）　郡衙道の南端に「大湊」という小字名が存在する。

註5）　別符とは、「別納の免符」に由来する。荘園や郡・郷等の公領で、本来の支配収取の単位とは別に、国衙が開発等により新たに特権を認めて、所当や公事（年貢や雑税）の一部を免ずる国符を与えることを意味する（工藤 2005）。



第5図　遺跡周辺の古代・中世の主要遺跡位置図（S=1/25,000）

【参考・引用文献】

多田隈豊秋 1975 「九州の石塔」上巻（福岡・佐賀・長崎・熊本）　西日本文化協会

松本雅明編 1985 『玉名市』「熊本県の地名」日本歴史地名体系第 44 巻　平凡社

徳丸亞木　1993 『座と祭り（オホシ）』「玉名市史」資料篇３自然民俗　玉名市

坂田邦洋　1994 「玉名郡衙」玉名市歴史資料集成第 12 集　玉名市秘書企画課

美濃口雅朗 1994 『熊本県における中世前期の土師器について』「中近世土器の基礎研究Ｘ」回転台土師器の諸様相
日本中世土器研究会

熊本県　1996 「表層地質」『熊本県環境基本計画　環境特性図（地図集）』

山本信夫　2000 「大宰府条坊跡ＸＶ」－陶磁器分類編－太宰府市教育委員会

工藤敬一　2005 『鎌倉幕府体制下の玉名』「玉名市史」通史篇上巻　玉名市

菜畑光博　2008 『轟式土器』「総覧　縄文土器」株式会社アム・プロモーション

玉名市教育委員会 2011 「玉名市遺跡地図」玉名市文化財調査報告第 26 集

橋口剛士　2013 「辺田見中道遺跡２」－上益城農業協同組合ガソリンスタンド建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－
御船町文化財調査報告第３集　御船町教育委員会

写真１　玉名高校　正門(南より)

写真２　玉名高校(国登録文化財の校舎)

写真３　調査区全景１(南東より)

写真４　調査区全景２(北東より)

写真５　１トレンチ拡張区の重機掘削状況

写真６　１トレンチ土層断面(西より)

写真７　２トレンチ全景(南より)

写真８　３トレンチ土層断面(東より)

写真９　４トレンチ状況(北より)

写真10　５トレンチ土層断面(東より)

写真11　１トレンチ拡張区遺構検出状況；白線なし(南より)

写真12　１トレンチ拡張区遺構検出状況；白線あり(南より)

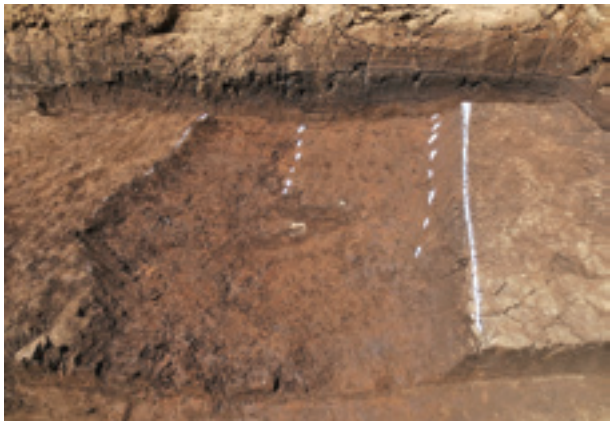


写真13　溝(あるいは道路)北側土層断面

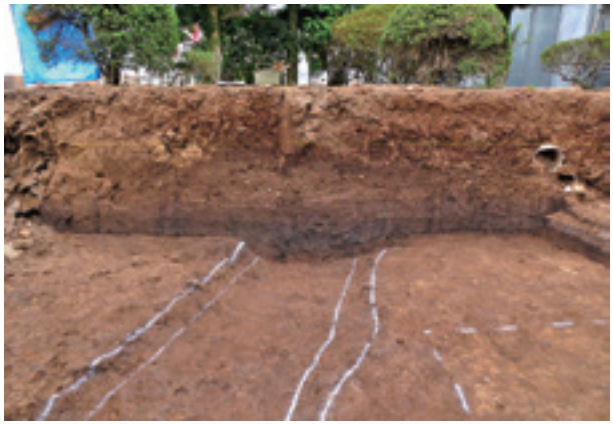


写真14　溝(あるいは道路)南側土層断面

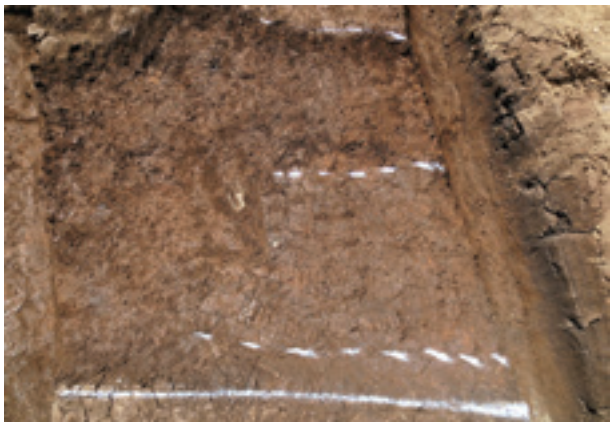


写真15　溝(あるいは道路)硬化面の状況(南より)

写真16　溝(あるいは道路)硬化面の土層断面(南より)

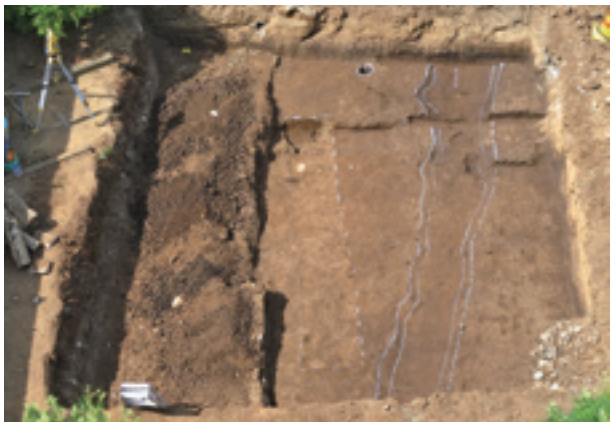


写真17　1トレンチ拡張区遺構完掘状況(校舎屋上南より)

写真18　調査区全景(校舎屋上南より)

写真19　ピット検出状況

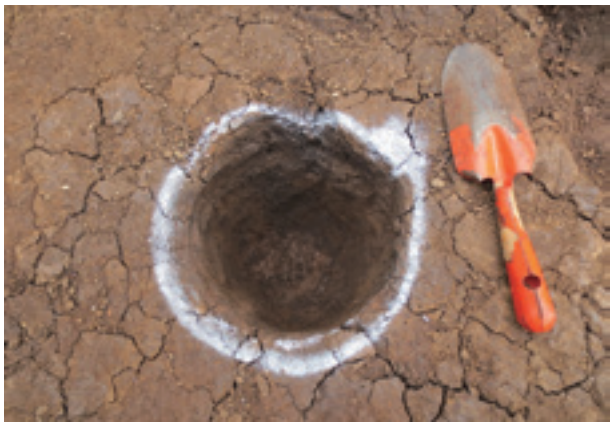


写真20　ピット完掘状況

写真21　調査区と現在の郡衙道(校舎屋上南より)

写真22　調査区(左上)と現在の郡衙道(南より)

写真23　現在の郡衙道(校舎屋上北より)

写真24　縄文時代前期轟式土器(No.1)出土状況(3層中)

写真25　溝(あるいは道路)出土遺物

写真26　3層出土遺物

写真27　縄文時代前期轟式土器(No.1)

写真28　滑石製石鍋片(2層出土；写真のみ掲載)

写真29 龍泉窯系青磁(No.3)と糸切り底土師器小皿(No.2)

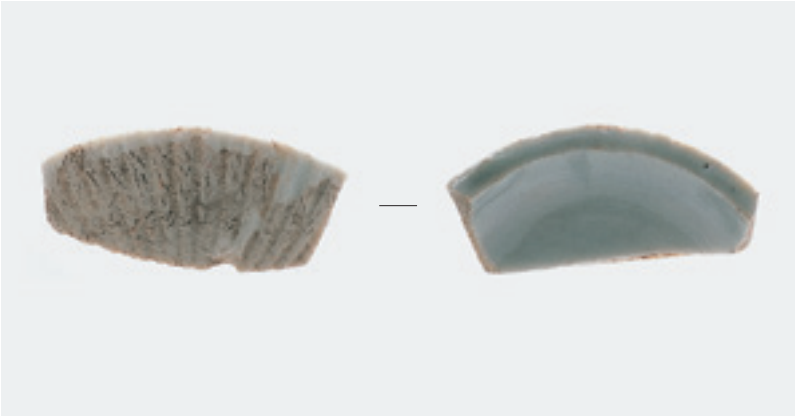


写真30　古伊万里の紅皿片(1層出土；写真のみ掲載)

写真31　土錘片(3層出土；写真のみ掲載)

報 告 書 抄 録

ふりがな	たまなこうこうこうていいせき
書名	玉名高校校庭遺跡
副書名	玉名高等学校渡り廊下改築工事に伴う発掘調査
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第 306 集
編著者名	岡本真也
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒 862-8609　熊本市中央区水前寺６丁目１８番１号　℡ 096-383-1111（代表）
発行年月日	2014 年 3 月 20 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
玉名高校校庭遺跡（たまなこうこうこうていいせき）	熊本県（くまもとけん） 玉名市（たまなし） 中（なか）　徳丸（とくまる）	(206)	437	32° 55′ 39″	130° 33′ 5″	2013. 8. 21 ～ 2013. 8. 23	362. 96 ㎡ （工事立会も含む）	玉名高等学校渡り廊下改築工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
玉名高校校庭遺跡	包含層	縄文 古代 中世	溝（あるいは道路）　１条 ピット　１基	縄文時代前期轟式土器 龍泉窯系青磁（13 世紀前半） 糸切り底土師器小皿	

要約	今回の発掘では、古代の大湊（水駅）と推定される低地から玉名郡家へとつながる、南北に走る郡衙道に沿う形（北北東に 12 ～ 13 度程度のずれ）で、溝あるいは道路（幅 0.85～0.9m、深さ 0.2m、確認長 7.2m）を１条確認した。時期は古代～中世（13 世紀）と推定される。

熊本県文化財調査報告 第306集

玉名高校校庭遺跡

玉名高等学校渡り廊下改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

発行年月日　平成26年3月20日
発行　熊本県教育委員会
〒862-0950　熊本市中央区6丁目18番1号
印刷　有限会社ソーゴーグラフィックス
〒868-0015　熊本県人吉市下城本町1426-1

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 306 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 玉名高校校庭遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日